

憲法しんぶん 速報版
 発行 憲法改悪阻止各界連絡会議 (憲法会議)

Eメール mail@kenpoukaigi.gr.jp TEL03-3261-9007
 ホームページ http://www.kenpoukaigi.gr.jp FAX03-3261-5453

2018年12月11日 (火)

NO. 917号

本号3頁

自民党の狙った臨時国会での改憲案の提示を阻止！ 国会閉会日に衆院憲法審査会を3分間開催、森会長謝罪！

今国会で10日の国会閉会日に、初めて与野党揃って開かれた憲法審査会を傍聴して来ましたので、紹介します。

午前10時14分から衆院憲法審査会が開会、発言者は森会長一人、開催時間は3分間でした。森会長は「憲法は国民のものと公正かつ円滑に運営に努めたが、結果として円滑な運営ができなかった。今後、与野党協力して丁寧に運営して行かねばならない」と、29日の与党や改憲賛成の会派だけで強行開催したこと等の今臨時国会での運営について謝罪しました。



そして、73件の請願の対応については幹事会で「保留」と決めたことを報告。さらに国民投票法改正案の継続審議とすることを提案し、賛成者に起立を求めました。これに対して、自公、維新、希望、未来日本の改憲賛成諸党だけが起立し、野党はそろって座ったままで反対の意を示しました。国民投票法の改正案をまとめた国民民主党も反対しました。

このように、今臨時国会では通常国会に続き、自民党が狙った改憲案の提示を許さず、改憲論議もさせず、改憲発議を阻止することができました。

憲法審査会終了後、自民党・新藤筆頭幹事は「今後はより政局から離れて、国民のために静かな環境で憲法論議を深めていく。これが私たちの役割ですから、しっかりとその務めを果たしていきたいと思っています」とマスコミに語りました。

重要法案を強行・強行で通すも、改憲論議は一步も進ませず！

臨時国会では、「安倍一強」と言われる中、①経済界の強い要望のもとで急浮上し、技能実習生の失踪者の厚労省資料のねつ造・改ざんが明らかになった入管法の改正強行。②水道事業の広域化や運営権の売却（コンセッション方式）を推進し、安全性や安定性の後退や水道料金の値上げなどが懸念される改定水道法の強行。③漁業権の「地元優先」枠をなくし、外部企業らの漁業への参入を促す狙い、「海や漁村の荒廃を招きかねない」との懸念の声が出されている漁業法の改悪など、本当に、ひどい臨時国会でした。しかし、憲法改正の議論は一步も進みませんでした。

改憲強行シフトが裏目に出た安倍・自民党

安倍首相は10月2日内閣改造とともに党役員人事を行い、党憲法推進本部長に下村博文氏、加藤勝信前厚生労働相を総務会長に、甘利明元経済再生相を選対委員長に起用。さらに、衆院憲法審査会の運営で与野党協調路線を取っていた中谷元筆頭幹事と、船田元幹事は交代させ、筆頭幹事に「ウルトラ右翼」の新藤義孝氏を起用し、露骨な改憲強行シフトを敷きました。



そして、早速、下村氏らは、全国289の衆院選挙区ごとに置かれている各支部全てに、新たな「憲法改正推進本部」の今年中の設置を要請しました。そして、安倍首相4日の所信表明演説で、改憲をあおり立て、自民党改憲案を衆参両院憲法審査会に示す考えを示し、三権分立に公然と挑戦を表明しました。

しかし、下村自民党憲法改正推進本部長「改憲で議論せずには職場放棄」と野党を批判。野党は猛反発し、国民も怒りの声をあげました。結局、本人が15日には謝罪し、憲法審査会の幹事を辞退。そして、自民党は憲法審査会の委員からも外しました。一方、新藤氏は、何としても憲法審査会を開催したいと、

野党の幹事が国会質問中や公務等で参加できない時間に幹事懇を設定。これに野党が批判すると謝罪するありさまでした。

さらに、焦った自民党は29日、森会長の職権で、自民、公明、維新の会、希望の党、未来日本の出席、野党欠席の中、強行開催し、6人の幹事を選出し、わずか2分で終わりましたが、「絶対にやってはならない、おきて破りだ」を行いました。そのため、6日も開催できず、閉会日の10日の「閉会処理」を中心に開催される事態となりました。

なお、4日に参院憲法審査会の与野党筆頭幹事と会長が会談し、臨時国会では参院憲法審査会を開催しないことを決めています。

安倍首相は、憲法改正の議論を前に進めるため、党と国会の要職に自らに近い議員を据えて今の国会に臨み、憲法審査会を前のめりの姿勢で進めようとした結果、野党の反発を招き、裏目に出た形でした。

通常国会に向け、さらに改憲阻止に向け、3000万人署名の早期達成に全力を！

自民党は10日の臨時国会で謝罪し、国民投票法の継続審議を決めるなど、通常国会での審議に向けた条件づくりを行いました。1月末の国会開催とともに、衆院の憲法審査会で国民投票法の開催を始め、国民投票法の審議の合間にも「自由討論」の時間を設定し、自民党の改憲案の提示を強行すると思われます。しかし、与党内でも改憲に対する様々な意見があり、さらに天皇の退位、参院選挙、消費税増税等と、国民投票法など入り込む余地のないハードな政治日程です。しかし、何をするか分からない安倍政権。私たちは明日からでも安倍阻止に向け、さらに運動を強めなければなりません。特に重要なのが3000万人署名の早期達成です。引き続き、頑張りましょう。

憲法共同センター 10日新宿駅西口で「9の日行動」

憲法共同センターは10日昼、12月の「9の日行動」を新宿駅西口で行いました。マイクを握り訴えたのは、自由法曹団の小部正治弁護士、革新懇の五十嵐仁法政大学名誉教授、民青の中川亜美さん、農民連の町田さん、全労連の小田川義和議長、長尾ゆり副議長、そして憲法会議の高橋事務局長です。



高橋事務局長は午前中の衆院憲法審査会の様子を報告し、衆参とも改憲派議員が3分の2いるもともども、通常国会・臨時国会で改憲論議をさせず、自民党の改憲案提示もさせなかったことの重要性を語り、通常国会での改憲論議・改憲発議を許さないためにも3000万人署名を早期達成しようと訴えました。

署名に協力した高齢の女性は、「昔、港区に住んでいたが、米軍の飛行機が怖かったことを覚えている。戦争は絶対いけぬ」と語りました。また、50代の女性は「安倍さんは危険。お金も持っているようだし、今好きなようにやっている」と怒り、署名しました。横浜市の男性（70）は「国会で法案を押し。国会のなかで野党がしっかり議席を持たないといけぬ。来年の参院選1人区での野党候補者の統一は大事だ」と述べるとともに、「国民が騒がないといけぬ」と話しました。

署名した他の人たちからも、出入国管理法改定の強行など議会のルールを踏みにじて暴走する安倍政権への怒りや「9条は変えさせない」などの声が相次ぎました。

各地のとらきみ

京都 3000万人署名を高校生らに広げるための交流会を開催！

「安倍9条改憲NO! 全国市民アクション・京都」は4日、キャンパスプラザ・京都で、安倍改憲ノーの3000万人署名を高校生らに広げるための交流会を開きました。

左京市民アクションでは、これまで高校や大学計11校で門前宣伝に取り組み、670人分の署名を集めています。そのうち1人で8割ほどを集める50代女性から経験を聞きました。

女性は「安倍政権はなかなかつぶれない。政権交代か、3000万人署名で改憲発議をとめるしかない」と署名の推進を決意。署名の呼びかけ方について「まず、相手の目を見て『こんにちは』と言う。そして『若い人を戦争に行かせたくないという思いで平和運動をしています』と自己紹介します。そこで信用してくれる方もたくさんいる」と報告。「一度対話になれば、最後まで言いたいこ

とは言います。こちらの真剣さが伝われば署名をしてもらえます。発議を阻止するため一人でも多く集めたい」と語りました。

参加者から「あいさつや、自分たちは何者か自己紹介することは大事だ」「大学生にどう声をかけるか勉強になった」などの感想が出されました。

東京 カトリックのシスターらが 3000 万人署名を訴える! —憲法にラブソングを!—

カトリックのシスターら 68 人が 8 日、安倍改憲に反対する「3000 万人署名」行動を新宿駅前で行いました。シスターらは「憲法を守って希望ある未来を子どもたちに残したい!」と、訴えました。日本カトリック正義と平和協議会など 5 団体の共催で 4 回目の行動を行いました。

シスターたちは「武力で平和はつukれない」の横断幕や「安倍内閣は退陣」などと書かれたプラカードを掲げ、賛美歌「きよしこの夜」を歌いながら、師走の新宿の街で署名を呼びかけました。

呼びかけ人のペリス・メルセス宣教修道女会の清水靖子シスター(81)は「今日は日本が米国の真珠湾に戦争を仕掛けた日から 77 年目です。無数の命が戦争で奪われ日本は無数の命を奪いました。戦争の加害者にも被害者にもなってはならないと決意して平和憲法を大切にしてきた。ともに憲法改悪を阻止し未来を守っていきましょう」と訴えました。

12・8 「赤紙」配り各地で宣伝

太平洋戦争開戦 77 年目の 8 日、全国各地で「二度と戦争しないために力を合わせよう」と「赤紙」(召集令状)配布、「9 条改憲 NO! 3000 万人署名」などを行いました。

宇都宮 「防衛費(軍事費)がすごく増えている」との声も

宇都宮市では、新日本婦人の会宇都宮支部の人たち 10 人が、中心街のオリオン通りと郊外の大型ショッピングセンター前の 2 ヲ所で宣伝しました。戦時中に使用されていた「赤紙」のコピーを配布し、「憲法 9 条を守るために力を合わせましょう」と訴えました。

「赤紙」には、「第一補充陸軍兵〇〇〇〇(氏名)」と書き、日時指定で〇〇部隊への到着を求めています。

「赤紙」を受け取った女性(37)は「防衛費(軍事費)がすごく増えているような気がします。この神のようなことが起きてはいけないと思います」と話していました。

埼玉 51 人が参加し、「赤紙」を配布し、3000 万人署名を訴える!

越谷市では、JR 南越谷駅前では 51 人が参加し、「赤紙」を配布し、「日本が再び海外で戦争する国になるのはごめんです。安倍首相らが狙う憲法 9 条などの改憲に反対し、基本的人権、平和主義の諸原則が生かされる政治を求めます」と訴え、安倍 9 条改憲を阻止する 3000 万人署名への協力を呼びかけました。

駅の利用者らが次々とビラを受け取り、子どもたちや家族全員が署名する姿もありました。署名した石崎菜々美さん(22)は「今の小さい子たちが戦争に行くのは。戦争を二度と起こってほしくない」と話しました。さいたま市の男性(49)は「改憲されたら困る。子どもたちがいるから、戦場にはいかせたくない。絶対に反対だ」と語りました。

この日の宣伝は 1 時間でしたが、135 人分の署名が集まりました。

広島 原爆ドーム前女性が集い、安倍改憲に「黙ってられない」と!

改憲を狙い、市民の平和への願いを無視する安倍政権に「もう、黙ってられない」と、約 100 人の女性が 8 日、広島市の原爆ドーム前で集い、「9 条改憲 NO!」などと書いた横断幕を持って手をつなぎ、ドームを囲みました。冷たいみぞれが降る中、「憲法を守れ 暮らしをまもれ」「安倍政権いやだ 今すぐやめて」と唱和しました。

リレートークで、1 歳の時、爆心地から約 3 キロで被爆した市内の小林貴子さんは「誰にも同じ苦しみを味わわせたくない。女性、母親として、改憲を狙う安倍政権をストップさせたい」と訴え。弁護士の下中奈美さんは市民の反対などで自民党の改憲案提示を阻止したと報告し、「憲法を守り抜く運動をどんどん進め、改憲を阻止しよう」と呼びかけました。

高校生平和大使を務める女子高校生は「各兵器も戦争もない社会にするためには努力が必要。自分の頭で考え、主張していく」と語りました。

昨年参加した市内の天川真由美さん(55)は「平和への思いがさらに強まった。3000 万人署名を繰り返し訴え続けたい」と話しました。